

第8回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成20年8月25日 午後6時30分
場 所 中央図書館 4階会議室
出席委員 毛利和弘委員 黒子恒夫委員 日高正登委員 鈴木喜和子委員
柏倉中央図書館課長補佐 川西西部図書館長
事務局出席職員 福島館長 迫中央図書館課長補佐 一ノ関管理係長
春日中央図書館図書担当係長 前田主任 小澤主事

議題及び内容

主な議題内容

(1) 議題

選書部会報告について

なお、主な意見等は以下のとおり

(まず事務局より選書部会報告について説明)

読書に障害がある方への資料提供について

・(委員) 現在作成を依頼している資料の種類とその利用状況について伺う。

現在はテープ図書を作成しており、利用者は85名、一人当たりのテープ図書貸出数は平均で6.6巻となっている。デイジー図書については他の図書館から借りて対応しているが、今年度より当図書館でも作成する予定であり、今後は当面テープ図書とデイジー図書を平行して作成する方向である。点字図書の要望はほとんどない。

・(委員) テープ図書に関しては、今後、カセットプレイヤー等の機器の確保が難しくなる。保存も考えると、媒体を変えていく必要があると思うが、テープ図書をデジタル化することはできるのか。

現在所蔵するテープ図書は作成時にテープ図書作成の許諾しか得ていないため、デジタル化する際は再度許諾をとる必要がある。

・(委員) 今後高齢化が進み、図書館利用に障害のある方が増えることが予想される。それを明記した上で、現在の障害者サービスの枠を超えた資料提供の重要性を書き込むべきと考える。そのためにも障害者と高齢者を別だてにしてはどうか。

それらも踏まえた上で来館(利用)困難者という表現に変更し、それに対応する新しい資料の充実、ボランティアの支援やサービス範囲の拡大を盛り込みたい。

外国語資料の収集について

・(委員) 先進自治体では外国語資料のデータ入力は何の程度まで対応できるのか。

例えば目黒区ではハンゲルの入力が可能である。今後もそのようなシステムは増えると考えられるため、他市の状況を調査し、システム導入の際に活かしたい。

郷土資料・市民文庫等について

- ・(委員) 中小出版社の発行する資料の収集については、職員が足を運ぶというよりは、中小出版社のレファレンスツールや、国立国会図書館が提供している日本全国書誌等をチェックする体制を選書システムに組み込む方が現実的である。
- ・(委員) 市民文庫は収集基準を明確にする必要があるだろう。対象者を広げすぎると収拾がつかなくなるので、武蔵野市在住者に限定するべきと考える。
- ・(委員) 市のイベントや講演会等で市にゆかりのある方に参加していただいた際に、市民文庫のPRを行ってはどうか。
- ・(委員) 市に関係する人物や出来事の新聞記事、あるいは地元で配布されたチラシ等は郷土資料として重要であり、ファイリングをしていくことが望ましい。

ITサービスについて

- ・(委員) 新聞武蔵野版のデータベースを公開することは著作権上問題がないのか。これは新聞記事全文ではなく、見出しのデータベースを作成し公開するものであり問題はない。「新聞武蔵野版目次データベース」等と表現を変更したい。

共同利用図書館及び多摩地域図書館での除籍について

- ・(委員) 各市共通の除籍基準を作るのは、制度や状況も違うため実現の可能性は低い。そのような表記は削除すべきと考える。
- ・本の共同利用や保存において各市立図書館と情報交換を行い、連携をはかるべき、といった表記を入れてはどうか。

武蔵野プレイス(仮称)の選書について

- 「子どもと母親」という表現を「親子」に変更したい。
- ・(委員) 武蔵野プレイス(仮称)では芸術と環境系の資料に特色を持たせる方針であると聞いている。芸術系資料は配架場所を変えるようだが、環境に関する資料はイベント等を行う際に活用することで特徴づけられるのではないか。

学校との連携について

- ・(委員) 現状を記載し、他の項目と同じ形態にすべき。そのほか、学校だけでなく、幼稚園、保育園との連携についてもふれるべき。

リクエストについて

- ・(委員) カウンターでの声かけ等、利用者との具体的なコミュニケーション例をあげてほしい。
- ・(委員) 現状を記載し、他の項目と同じ形態にすべき。

その他

- ・(委員) 今後の選書部会報告等の流れはどうなっているのか。
頂いたご意見をもとに事務局で修正したものを委員の皆様を確認していただき、再度ご意見を頂戴する。その後、選書部会長と協議し作成したものを10月に行われる運営委員会で報告することとなる。